

平成26年12月 東京地区百貨店売上高概況

平成26年1月19日

I. 概況

1. 売上高総額	1,795億円余
2. 前年同月比	0.3% (2か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭0.8%(90.9%) : 非店頭-3.9%(9.1%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成26年11月対比±0店)
5. 総店舗面積	854,956㎡ (前年同月比:-2.4%)
6. 総従業員数	18,868人 (前年同月比:-0.8%)
7. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	5-7月 -3.2%、6-8月 -1.6%、7-9月 +0.0%、 8-10月 0.5%、9-11月 0.2%、10-12月 0.2%

【参考】平成25年12月の売上高増減率は3.6% (店舗数調整後)

【12月売上の特徴】

- (1) 東京地区では、主力の衣料品や高額商材が好調に推移したことなどを背景に、2か月連続のプラスとなった。この結果、平成26年年間売上高は1兆5,772億円余となり、既存店ベース (店舗数調整後:+1.5%)、全店ベース (店舗数調整前:+0.8%) 共に、3年連続で前年実績をクリアした。
- (2) 12月の入店客数は、天候不順や日曜日1日減などの影響を受けながらも、クリスマス関連企画など各種催事の積極展開に加え訪日外国人増なども寄与し、前年を確保した。
- (3) 月の前半、低調に推移していた衣料品は、中旬以降の気温低下によってコート等重衣料の需要が盛り上がり、最終的には、紳士 (+3.1%)・婦人 (+1.1%) 共にプラスとなった。これに加えマフラー・手袋・タイツなどの防寒アイテムも活況を呈した。
- (4) 一方、このところ好調な身のまわり品、化粧品、時計などについては、国内需要の高まりを訪日外国人売上高が後押しする形で、安定した伸びを確保している。
(身のまわり品:+1.8%、化粧品:+12.6%、美術・宝飾・貴金属:+4.7%)
- (5) 歳暮ギフトは11月への前倒し計上が進んだ結果、12月は若干マイナスし、期間計でもわずかに前年を下回った。また、クリスマスケーキやおせちは、多くの店舗から有名店の商品を中心に、前年を上回る水準で好調に推移したとの報告が入っている。
- (6) 東京地区の1月の商況は、天候に恵まれた初商が各店とも堅調に推移し、中旬 (1月14日) 段階でも、前年比1%程度のプラスで推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した:6店、②変化なし:7店、③減少した:6店
- (3) 12月歳時記 (歳暮、クリスマス商戦、年末年始商材) の売上 (同上/有効回答数12店舗)
①増加した:5店、②変化なし:5店、③減少した:2店

東京地区百貨店 売上高速報 2014年12月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	179,525,967	100.0	0.3
紳士服・洋品	14,711,838	8.2	3.1
婦人服・洋品	29,245,454	16.3	1.1
子供服・洋品	2,468,458	1.4	-1.6
その他衣料品	2,998,754	1.7	-8.0
衣 料 品	49,424,504	27.5	1.0
身のまわり品	25,304,086	14.1	1.8
化粧品	9,802,389	5.5	12.6
美術・宝飾・貴金属	11,859,012	6.6	4.7
その他雑貨	7,931,097	4.4	-3.4
雑 貨	29,592,498	16.5	4.8
家具	1,833,999	1.0	-20.3
家電	722,574	0.4	0.5
その他家庭用品	5,437,386	3.0	-9.9
家庭用品	7,993,959	4.5	-11.7
生鮮食品	9,229,066	5.1	-3.7
菓子	16,070,080	9.0	-0.7
惣菜	12,272,962	6.8	1.0
その他食料品	19,815,500	11.0	-1.1
食 料 品	57,387,608	32.0	-1.0
食堂 喫茶	3,525,477	2.0	-1.7
サービス	2,771,027	1.5	3.1
そ の 他	3,526,808	2.0	-2.0

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商品券	6,095,581 千円	-4.5
従業員数	18,868 人	-0.8
店舗面積	854,956 m ²	-2.4

営業日数	31.0 日	前年	31.0 日
------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、身のまわり品が6か月連続、雑貨が3か月連続、衣料品が3か月ぶりのプラスとなった。また、家庭用品が2か月連続、食料品が2か月ぶりのマイナスとなった。紳士服・洋品、化粧品が6か月連続、美術・宝飾・貴金属が2か月連続、婦人服・洋品が3か月ぶり、家電、惣菜が2か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	0.3	—	2か月連続プラス
紳士服・洋品	3.1	0.2	6か月連続プラス
婦人服・洋品	1.1	0.2	3か月ぶりプラス
子供服・洋品	-1.6	0.0	6か月ぶりマイナス
その他衣料品	-8.0	-0.1	4か月連続マイナス
衣料品	1.0	0.3	3か月ぶりプラス
身のまわり品	1.8	0.2	6か月連続プラス
化粧品	12.6	0.6	6か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	4.7	0.3	2か月連続プラス*
その他雑貨	-3.4	-0.2	4か月連続マイナス*
雑貨	4.8	0.8	3か月連続プラス
家具	-20.3	-0.3	9か月連続マイナス
家電	0.5	0.0	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	-9.9	-0.3	2か月ぶりマイナス
家庭用品	-11.7	-0.6	2か月連続マイナス
生鮮食品	-3.7	-0.2	9か月連続マイナス*
菓子	-0.7	-0.1	5か月ぶりマイナス*
惣菜	1.0	0.1	2か月ぶりプラス*
その他食料品	-1.1	-0.1	2か月ぶりマイナス*
食料品	-1.0	-0.3	2か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-1.7	0.0	2か月ぶりマイナス
サービス	3.1	0.0	2か月連続プラス
その他	-2.0	0.0	5か月連続マイナス
商品券	-4.5	-0.2	2か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

東京地区百貨店 売上高速報 2014年1月～2014年12月

※店舗数調整後 ()が調整前

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	1,577,276,115	100.0	1.5 (0.8)
紳士服・洋品	134,250,579	8.5	3.0 (2.5)
婦人服・洋品	311,879,668	19.8	-0.8 (-1.7)
子供服・洋品	31,017,621	2.0	1.6 (1.4)
その他衣料品	31,701,804	2.0	2.9 (1.8)
衣 料 品	508,849,672	32.3	0.6 (-0.2)
身のまわり品	222,001,282	14.1	3.8 (2.6)
化粧品	92,959,598	5.9	10.8 (10.6)
美術・宝飾・貴金属	100,270,528	6.4	5.4 (3.4)
その他雑貨	73,639,042	4.7	-0.4 (-0.5)
雑 貨	266,869,168	16.9	5.5 (4.7)
家 具	22,980,186	1.5	-0.1 (-3.5)
家 電	10,715,947	0.7	-3.0
その他家庭用品	53,534,649	3.4	0.0 (-0.4)
家 庭 用 品	87,230,782	5.5	-0.4 (-1.5)
生 鮮 食 品	63,790,522	4.0	-1.7 (-2.0)
菓 子	109,933,572	7.0	0.3 (-0.1)
惣 菜	85,037,696	5.4	-0.2 (-0.6)
その他食料品	129,156,598	8.2	-0.7 (-0.9)
食 料 品	387,918,388	24.6	-0.5 (-0.8)
食 堂 喫 茶	38,357,801	2.4	-1.3 (-1.7)
サ ー ビ ス	29,205,803	1.9	5.3
そ の 他	36,843,219	2.3	-0.6 (-1.7)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商 品 券	39,185,802 千円	-5.6 (-5.8)
従 業 員 数	228,372 人	-0.2
店 舗 面 積	10,326,252 m ²	-3.4

営 業 日 数	30.3 日	前年	30.3 日
---------	--------	----	--------

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>